

## 学而第一

曾子曰、吾日三省吾身。

為人謀而不忠乎。

興朋友交而不信乎。

伝不習乎。

そうし い われ ひ み わ み かえり  
曾子曰わく、吾、日に三たび吾が身を省みる。

ひと ため はか ちゆう  
人の為に謀りて忠ならざるか。

ほうゆう まじ しん  
朋友と交わりて信ならざるか。

なら つと  
習わざるを伝うるか。

(1-4)

< 曾子曰わく >

Q : 「曾子曰わく」とは何ですか。

A : 「曾子」は、孔子の門人で、孔子より 46 歳若かった。年は若かったが、孔子の道を伝えた第一人者でした。

< 吾、日に三たび吾が身を省みる >

Q : 「吾、日に三たび吾が身を省みる」とは何ですか。

A : (1) 「私は一日の中で何回も何回も、主として次の点について反省する」の意。

(2) 「三省」とは、しばしば反省考察するの意。丁寧<sup>ていねい</sup>に反復して、自分の身を省みること。

(3) 荀子の「君子は、博く学び、日に己れを参省すれば、知、明らかにして、行、過つことなし」(勸学)の「参省」と同じ。

< 人の為に謀りて忠ならざるか >

Q : 「人の為に謀りて忠ならざるか」とは何ですか。

A : (1) 他人のために相談に乗った時、ほんとうに誠意、まごごろをもって考えてやったか、ということ。

(2) 「謀」とは、相談に乗って計り考えてやる、世話するの意。「忠」とは、口と心の一致することとも言い、あるいは、中心であるとも言うが、要するに人のまことの意。忠君の忠も、またこの義。

< 朋友と交わりて信ならざるか >

Q : 「朋友と交わりて信ならざるか」とは何ですか。

A : (1) 友達との交際において、信義をつくさない、約束をたがえたことはなかっただろうかということ。

(2)「朋友」とは、友人の意。

(3)「信」とは詐<sup>いつわ</sup>りのない誠<sup>まこと</sup>。

信は人と言との会意文字で、人の言は詐りがあってはならないもの。

(ア)「忠」は、己一個で真心を貫く誠の意。

(イ)「信」は、他人との関係において欺かない誠の意。

(ウ)論語では共に「まこと」と読む、極めて大切な語。

< 習わざるを伝うるか >

Q : 「習わざるを伝うるか」とは何ですか。

A : (1)「まだ自分の知識として完全に消化されていない事からを、他人に教え伝えはしなかっただろうか」の意。

(2)自分がまだ十分に身につけなかったことを、他人に伝えはしないか。学んでも、よくおさらいもしないでまだ習熟して自分のものとなり切らないものを受け売りで人に教えて、人を誤らせはしないかとの学問的・学者的良心から出た反省。

(3)このほかに、「かつて孔子から教わったことを十分納得するまで復習せずに、弟子たちに教えてしまったのではないか」という解釈もある。

(4)また、「伝を習わざるか」と読み、「古典の勉強を怠<sup>おこた</sup>っているのではないか」と解釈する説もある。

(5)更に、「伝えられて習はざるか」と読み、「師から伝えられたことに対し、時に之を習うという努力を払わなかったのではないか」の意に解釈する説もある。

(6)この反省は、現代でいうリフレクション(reflection)にあたる。教育者たる者の深く慎戒すべきこと。教育者たる者は、日々に学修に努め、いやしくも自分のものとならないものを伝えるような受け売りをしてはならない。日夕<sup>おそ</sup>恐れ省<sup>おこた</sup>みて、過<sup>あやま</sup>ちがあれば速やかに改め、なければ益々<sup>けんけん</sup>励み努めること。易に「君子終日乾乾し、夕べに惕<sup>てきじやく</sup> 惹たり」(乾惕)とある。

(7)この「三省」で反省させられる事からはすべて、他人に関係する事からである。ただ一人ひきこもって、自分の心を研ぎすますというようなものは、論語の道徳ではないようだ。

2011年5月23日林明夫記